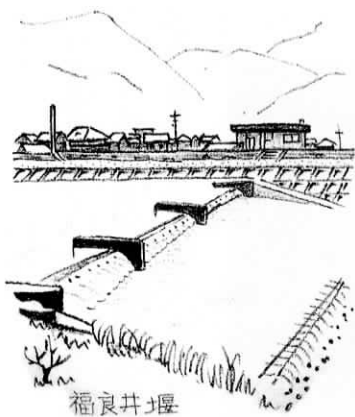


時代	西暦	事項
旧石器	約BC一万年以上前	<ul style="list-style-type: none"> 山口盆地に人間が住み始める。 平川の堂道遺跡から後期の石器が見つかる。
縄文	約BC一万年前～ 二三〇〇年前	<ul style="list-style-type: none"> 榎野川・吉敷川流域の台地から土器が見つかる。 朝田墳墓群第I地区で縄文式土器が見つかる。
弥生	約二三〇〇年～ 一七〇〇年前	<ul style="list-style-type: none"> 朝田墳墓群第II地区で中期の竪穴住居跡が見つかる。 食糧貯蔵穴から、ドングリ・マメ・米とともに、生きた種子一個が見つかる。 朝田墳墓群第I・II地区、王子の森墳墓群などで、中・後期の墓が見つかる。
古墳	約一七〇〇年～ 一四〇〇年前	<ul style="list-style-type: none"> 朝田墳墓群第II地区から前方後円墳が見つかる。 朝田墳墓群全体から横穴式古墳群・群集墳や、土器・鉄剣・鏡などの副葬品が見つかる。
大和	六四六年(大化二)	<ul style="list-style-type: none"> 「大化の改新」始まる。国・郡・里(郷)の行政区画。条里制による地割りが行なわれる。

直径約三メートル深さ一・九メートルのくぼみに水をたたえた大岩で、この滝壺が「石鍋」である。まさに石の大鍋で、この愛称は享保十三年(一七二八)の『地下上申絵図』にも地名として記録されており、現在も小字名として残され、また最後に転出した野村家の門名でもあった。気の遠くなるような長年月の侵食作用によるものであろうが、それにしても自然の力の偉大さに驚かされる。

○夜泣き岩(河内)

朝田川に架かる郷多良橋を渡って旧道を馬庭に向けて上り、朝田神社(五ノ宮)跡を少し過ぎると、左手の山すそに大きな岩がある。これが「夜泣き岩」である。その由緒などはよくわからないが、古老の話によると、夜泣きする子連れをお参りするとご利益があったという。



奈良	七五二年(天平勝宝四)	・榎野川流域に東大寺の荘園「榎野庄」が開かれる。
平安	一一八五年(寿永四)	・平氏一門壇の浦で滅びる。
鎌倉	一一八六年(文治二)	・周防国は東大寺再建の料国となり、重源が国司となる。このころ、国衙領として湯田保・黒川保・朝田保・勝井保・千代丸保があった。
	一二五〇年頃	・大内氏の一族黒川五郎が岩富・黒川あたりを支配して館を築く。
	一二六三年(弘長三)	・西明寺(現最明寺)が創建されたといわれる。
	一二九九年(正安元)	・若宮八幡宮が宇佐より勧請され創建されたといわれる。
南北朝	一三六〇年(正平十五)	・大内弘世が山口に館を移す。
	一三六〇年頃	(弘世は、勝井の熊野権現社を勧請・建立したといわれる) ・石州街道が通ずる。
	一四六九年(文明元)	・宗像氏郷、大内家に属する。
	一四八〇年(文明十二)	・連歌師宗祇が山口を訪れる。
	一四九七年(明応六)	・大内義興が周防五社詣を行い、五ノ宮大明神(朝田神社の前身)へ参詣する。

室町	一四九九年(明応八)	・五ノ宮明神社再建される。
	一五二七年(大永七)	・宗像正氏は山口に出仕し、黒川郷に住居して、名を黒川隆尚と改める。
	一五二九年(享禄二)	・高井八幡宮再建される。(創建年不明)
	一五四五年(天文十四)	・黒川館にて鍋寿丸(のちの宗像氏貞)生まれる。
	一五五〇年(天文十九)	・策彦和尚を正使とする遣明船が帰る。
	一五五一年(天文二十)	・F・サビエル、山口へ立ち寄る。(翌年離日する)
	”	・大内義隆、陶隆房に攻められ大寧寺で自害する。黒川隆像(宗像氏男)もこれに殉ずる。
	一五六九年(永禄十二)	・この戦乱で熊野権現社焼失する。
桃山	一五八〇年(天正八年)	・大内輝弘の乱がおこり、関所(しらべの森)が設置される。
	一六〇九年(慶長十四)	・住吉明神社、摂津住吉大社から勧請、創建する。
江戸	一六二四年〜一六四三年の間(寛永年間)	・黒川八幡宮、岩富へ再建される。(慶長十五年説あり。行久への創建年は不明)
	一六五三年(承応二)	・僧教春が教正寺(現養元寺)を開いたといわれる。
	一六八〇年(延宝八)	・熊野権現社再建される。
	一七〇六年(宝永三)	・正八幡宮、平川の平清水八幡より勧請し建立される。
		・黒川八幡宮の念仏踊仕法が定められた。

江戸	
一七二五年 (正徳五)	・岩富公会堂横の庚申塔が造られた。一七七〇年代は青面金剛像、一八〇〇年代は猿田彦の塔が大歳各地に建てられた。(庚申信仰)
一七一九〜二五年 (享保四〜十)	・高井墓地の地藏像が、この年造られた。このうち数年間のうちに、矢原・朝田・三作・周布町などの五体が造られている。(地藏信仰)
一七二三年〜一七五三年 (享保八〜宝暦三)	・「防長地下上申」が作成される。
一七三九年 (元文四)	・教正寺改め、養元寺となる。
一七五五年 (宝暦五)	・山下玄良が生まれる。
一七五七年 (宝暦七)	・和田の大乗妙典宝塔が建立される。
一七九九年 (寛政十二)	・吉敷村との水争いが起きる。
一八一五年 (文化十二)	・庄屋伊藤五兵衛親子は郷之尾堤の水不足を補うため、山に水路を掘り抜く。
”	・山下玄良六十一歳でなくなる。
一八二二年 (文政五)	・岩富公会堂横の馬頭観音像ができる。大歳の馬頭観音は一八〇〇年代に多く造られる。
一八三一年 (天保二)	・防長両国に百姓一揆起きる。吉富家・山田家も打ちこわしにあう。
一八三八年 (天保九)	・吉富美之助 (簡一) が生まれる。
一八四二年 (天保十三)	・藩は諸郡村に「風土注進案」の録上を命ずる。

明治	
一八六四年 (元治元)	・湯田川の通船工事着手される。
”	・井上聞多讚井で襲われ重傷をうける。
”	・周布政之助が吉富家で自刃。四十二才。
”	・高杉晋作・伊藤俊輔 (博文)、赤間関に兵を挙げる。
一八六五年 (慶応元)	・湯田川の通船工事完了、開通する。
”	・吉富藤兵衛 (簡一) 鴻城軍をつくり、井上聞多を総督として戦う。
一八六九年 (明治二)	・大歳地区は矢原村・朝田村の二村となる。(黒川市・岩富は対岸の黒川村に統合される)
一八七〇年 (明治三)	・朝田の関屋土手が石畳に改修される。
一八七一年 (明治四)	・廃藩置県により、山口・岩国・豊浦・清末の四県を置き、同年十一月に四県を廃して「山口県」を置く。
一八七三年 (明治六)	・五ノ宮は郷社に認定され、朝田神社となる。他の六社はすべて村社と認定される。
一八七四年 (明治七)	・大・小区制の採用により、大歳は「第十大区第六小区」となる。
”	・朝田小学校が創設される。
一八七七年 (明治十)	・下字野令村と協議して高田小学校をつくる。(朝田小学校は分校となる)
一八七九年 (明治十二)	・村は再び矢原村・朝田村になり樫野川が村境となる。

明治	
一八八七年(明治二十)	二村連合体となり、黒川市に役場が置かれた。
一八八九年(明治二十二)	・榎野川改修の起工式が行なわれる。
〃	・市町村制施行により、矢原・朝田の両村は合併、「矢原朝田村」となる。
〃	・矢原朝田村巡査駐在所が黒川市に設置される。
〃	・榎野川の堤防工事が完了。小郡の丸山から岩富まで堤防上に県道が移る。
一八九四年(明治二十七)	・矢原の一等水準点が設置される。
一八九五年(明治二十八)	・高田尋常高等小学校火災で焼失し、学校組合を解散する。
一八九八年(明治三十一)	・大歳尋常小学校が現在地に新設される。
一九〇〇年(明治三十三)	・村名を大歳村と改める。
一九〇一年(明治三十四)	・山陽鉄道(三田尻〜厚狭)が開通する。
一九〇八年(明治四十二)	・豊年橋架け替えられる。
一九〇九年(明治四十三)	・軽便鉄道(小郡新町〜湯田)が開通する。
〃	・村内七社の合祀がまとまり、「郷社朝田神社」として現在地へ移築遷座した。
一九一三年(大正二)	・普通鉄道の山口線(小郡〜山口)が開通する。
一九一四年(大正三)	・吉富簡一が亡くなる。七十七才。
一九一五年(大正四)	・秋穂渡瀬橋架橋される。
〃	・大歳郵便局ができる。

大正	
〃	・大歳村に初めて電灯がつく。
一九一七年(大正六)	・石津橋が架け替えられる。
一九二一年(大正十)	・県道(小郡〜山口)が国道十七号線となる。
一九二二年(大正十一)	・小郡〜山口間に榎野自動車商会のバスが運行される。
一九二五年(大正十四)	・大歳郵便局に初めて公衆電話がつく。
一九二七年(昭和二)	・大歳競馬場ができる。
一九二九年(昭和四)	・山口町と吉敷村が合併して山口市となる。
一九三一年(昭和六)	・周布政之助の顕彰記念碑が建てられる。
一九三二年(昭和七)	・小郡〜山口間に道路新設。国道十七号となる。
一九三三年(昭和八)	・供有橋が架けられる。
一九三五年(昭和十)	・村内に電話五台がつく。
〃	・山口線に矢原駅ができる。
〃	・大歳橋・黒川橋・千代丸橋が架けられ、共有橋が改修される。
〃	・大暴風雨で榎野川・吉敷川の堤防が切れる。
一九三六年(昭和十一)	・山口ゲンジボタルの発生地が天然記念物に指定される。
一九四一年(昭和十六)	・松村昶子選手ベルリンオリンピックに出場する。
一九四二年(昭和十七)	・大歳村会で山口市への合併を決める。
一九四三年(昭和十八)	・台風で大きな被害を受ける。
一九四四年(昭和十九)	・山口定期自動車会社を買収し、山口市営バスが発足する。
〃	・大歳村など、二町七村が山口市と合併する。

昭和	
一九四五年(昭和二十)	・太平洋戦争終り、山口市に占領軍くる。
一九四六年(昭和二十)	・「自作農創設特別措置法」が制定され、地主の保有面積が制限され、自作農が多数誕生する。
一九四七年(昭和二十二)	・学制改革により六・三制となり大歳小学校となる。
一九四八年(昭和二十三)	・農業協同組合ができる。
一九四九年(昭和二十四)	・大歳公民館が設置される。
〃	・山口市消防団大歳分団が発足する。
一九五一年(昭和二十六)	・大歳養鶏農業協同組合が設立される。
一九五二年(昭和二十七)	・矢原に市営住宅五十五戸ができる。
〃	・平川と結ぶ石津橋が改修される。
一九五三年(昭和二十八)	・国道十七号線は、一級国道九号線(京都く小郡)となる。
〃	・市営バス大歳線が開通する。
一九五四年(昭和二十九)	・旭幼稚園開園する。
一九五五年(昭和三十)	・大歳支所が出張所と改められる。
一九六〇年(昭和三十五)	・二斗代橋が架設される。
一九六一年(昭和三十六)	・国鉄山口線にディーゼルカーが配置される。
一九六三年(昭和三十八)	・大歳出張所は黒川市(千代丸橋側)に新築移転する。
〃	・大歳地区で有線放送が始まる。
〃	・県陸上競技場ができ、第十八回国民体育大会が開催される。
一九六六年(昭和四十二)	・大歳公民館が新築(出張所横)される。
〃	・山口測候所が開設される。

昭和	平成
一九六七年(昭和四十二)	一九九二年(平成四)
一九七〇年(昭和四十五)	一九九三年(平成五)
一九七二年(昭和四十七)	〃
〃	二〇〇一年(平成十三)
一九七三年(昭和四十八)	〃
〃	〃
〃	〃
一九七四年(昭和四十九)	一九七五年(昭和五十)
一九七七年(昭和五十二)	一九七九年(昭和五十四)
一九八二年(昭和五十七)	一九八三年(昭和五十八)
一九八六年(昭和六十一)	一九八七年(昭和六十二)
・山口県商工指導センターができる。	・朝田墳墓群公園開園する。
・山口松下電器ができる。	・「ポリテクセンター山口」開校する。
・豪雨で戦後最大の被害となる。	・「弥生こぶし」が開花する。
・矢原河川敷公園できる。	・県立山口養護学校開校する。
・山口線にSLさよなら列車はしる。	
・維新百年記念公園ができる。	
・愛児園湯田保育所ができる。	
・榎野川の矢原堰が可動式になる。	
・山口県衛生公害センターができる。	
・山陽新幹線が開通する。	
・富田原に県学校給食総合センターができる。	
・SL「やまぐち号」が走り始める。	
・山口バイパスが開通する。	
・中国自動車道が全線開通する。	
・山口県流通センターができる。	
・大歳公民館・大歳出張所が現在地に新築される。	

参考文献 (順不同)

- 山口県文化史 山口県政史 山口県史 山口県の歴史(小川国次) 山口県の百年(小川国次他) 図説山口県の歴史(八木充) 山口県の歴史(山口県・平成三年) 山口県百科事典(山口県教育会) 山口のすまい(山口県住宅課) 山口市の民家(山口県建築士協会) 山口県の地学(山口地学会) 日曜の地学(山口地学会) 山口県の野鳥ガイド(山口県立山口博物館) 山口市史(昭和五十七年) 山口市史 地区編(昭和三十六年) 山口市政報告 山口市統計年報 福岡管区気象台年報 山口測候所気象統計 防長地下上申 防長風土注進案 防長寺社由来 山口県風土誌 防長地名淵鑑 山口宰判本控 山口県史料(中世・近世) 維新史料大庄屋林勇藏 年中吉凶記録(田中家藏) 小郡町史 郷土史ふるさと嘉川 仁保の郷土史 小鯖村史 平川文化散歩(石川卓美) 朝田墳墓群Ⅰ・Ⅱ(山口県教育委員会) 門前遺跡(山口市教育委員会) 王子の森墳墓群(山口県教育委員会) よみがえるねむりの丘(山口市教育委員会) 日本の古代遺跡(小野忠熙) 山口市内遺跡詳細分布調査(大歳地区・山口市教育委員会) 山口市の石仏・石塔(Ⅰ)(山口市教育委員会) 『佐夜姫社』調査概要(山口市教育委員会) 山口県内の水鳥の生育状況調査報告書(日本野鳥の会山口県支部) 山口大学野鳥研究会のしおり 大歳村基本調査(大歳尋常高等小学校) 大歳小百年史(大歳小学校) ふるさと大歳(大歳小学校) 大歳・岩富の文化と伝統行事(田中三郎) 防長新聞 防長歴史用語辞典(石川卓美) 原色鳥類図鑑(保育社) 周防長門の生活誌(松岡利夫) 聞き書 山口の食事(中山清次) 図説 民俗探訪事典(山川出版) 食生活の歴史(瀬川清子) 野良着(福井貞子) 日本の神(山折哲雄) 日本人の靈魂観(山折哲雄) 日本人の宗教感覚(山折哲雄) 鎮守の森は泣いている(山折哲雄) 日本人の信仰(梶村昇) 森の思想が人類を救う(梅原猛) 神仏習合(義江彰夫) 変貌する神と仏たち(村山修一) 日本の伝統と宗教(安蘇谷正彦) 宗教民俗集成4・7巻(五来重) 日本宗教総覧96(新人物往来社) 日本民俗宗教辞典(東京堂) 大日本百科事典(小学館) 日本人と仏教(日本通信教育連盟) 日本の歴史(家永三郎) 藩政期防長両国における民俗信仰の諸相(徳丸亜木) 山口県の神社統合について(広田暢久) 或る梵鐘のルーツを尋ねて(芥川竜男) ふるさとのことば(波多放彩) わたしのことば誌(山手信義) 山口県方言研究(岡野信子・白木進)

あとがき

「郷土」あるいは「ふるさと」とは、生れ育った場所というのが、老若に共通するイメージです。そして、郷土の先人がはぐくみ築いてきたその「ふるさと」が、どのような歩みを経て今日に至ったかを知り、それを永く後世に伝えることは、現代を生きる私達の大切な務めだといわれています。

しかし、残念なことに市域の中では大歳地区のみが郷土史(地区史)を持っていませんでした。昭和六十二年(一九八七)、なんとか郷土史ができないものかと、当時の蔵成秋次大歳公民館長(出張所長)や平川英夫氏の呼びかけで発足したのが、「大歳史談会」(初代会長 平川英夫)です。編さんに向けて史料の発掘や調査研究に取りかかりましたものの、まもなく会長が病に倒れて休止。平成四年(一九九二)から改めての再出発でした。同十一年、山本克己公民館長(出張所長)のもとで、大歳自治振興会による郷土史編さん事業がようやく軌道に乗り、同年十一月に鷺尾泰治自治振興会長より正式に大歳史談会へ編さん作業が委嘱されることになりました。史談会では、直ちに編さん三カ年計画を立案して、地区史編さん委員会(自治振興会理事会)の承認を得たのが同年十二月です。こうして委嘱された編さん作業は発進し、苦難の道をたどりながらも、どうやら予定どおり執筆を終り、ここに発刊の運びとなりました。

これもひとえに、歴代の大歳自治振興会長・大歳公民館長(出張所長)はじめ地区民の、暖いご声援とご協力があったればこそと、改めて厚くお礼を申し上げる次第です。また、広田暢久氏(元山口県文書館副館長)には、顧問としての助言指導をはじめ執筆原稿の監修まで心よくお引受けいただき、本書が史書としてより正確を期することができましたことに心から感謝申し上げます。なお、印刷に

ついで(有)嶋村印刷所 嶋村竹一氏の惜しみない協力のあつたことも付記しておきます。

本書は、大歳史談会員によつて執筆いたしました。執筆分担は次のとおりです。

林 梓—大歳の自然

藤井 晃—民俗(年中行事)

山内明一—歴史(原始古代・中世・近

山根由江—民俗(方言)

世・近代)

長岡速士—宗教・民間信仰

民俗(衣・食・住)

小嶋道男—人物

石村良太—歴史(現代)

長廣敏郎—名所旧跡

池田 正—民俗(農作業)

写真は、グラビアについては主に栗林和彦氏にお願いしたほか、林・小嶋・長広が担当。また、カットについては大隅禮次郎氏のご協力をいただきました。

最後に、この『郷土大歳のあゆみ』は、太古の昔から歩み続けてきた「農村ふるさと大歳」の姿や歴史を明らかにすることに力をそそぎました。新しくこの地区に移り住まれた方々ともども、この美しい風土や良き伝統を受け継いで、私たちの住む大歳地区に一層愛着を持たれることを願って筆をおきます。

大歳史談会

会長 山内明一

郷土大歳のあゆみ

平成十四年十二月十日発行

編集 大歳地区史編纂委員会
(大歳史談会)

発行 大歳自治振興会

印刷 (有)嶋村印刷所

大歳探訪マップ

湯田地区

吉敷地区

小郡町

平川地区



名所旧跡等

- ① 石鍋
- ② 立岩の大滝
- ③ 秋葉神社
- ④ 馬庭の大岩
- ⑤ ほたるの里
- ⑥ 夜泣岩
- ⑦ 五の宮跡
- ⑧ 関屋越流堤
- ⑨ 王子の森墳墓
- ⑩ 山伏様
- ⑪ 子育観音五重の石塔

公共施設等

- ⑫ 郷之尾堤トンネル
- ⑬ 郷之尾堤の碑
- ⑭ 岩富一等水準点
- ⑮ 山下玄良顕彰碑
- ⑯ 最明寺
- ⑰ 田中平四郎翁顕彰碑
- ⑱ 恵美須社
- ⑲ 朝田神社
- ⑳ 大歳様
- ㉑ 養元寺
- ㉒ 一里塚跡
- ㉓ しらべの森
- ㉔ 阿弥陀堂跡
- ㉕ 矢原一等水準点
- ㉖ 吉富簡一旧宅
- ㉗ 大曲り
- ㉘ 周布政之助顕彰碑
- ㉙ 杉山誉重顕彰碑
- ① 大歳公民館・大歳出張所
- ② 大歳郵便局
- ③ 県環境保健研究センター
- ④ 県立山口養護学校
- ⑤ 鴻南中学校
- ⑥ ポリテクセンター山口
- ⑦ 山口測候所
- ⑧ 県母子福祉センター
- ⑨ 大歳警察官駐在所
- ⑩ 湯田中継ポンプ場
- ⑪ 山口インフォメーション・カレッジ
- ⑫ 山口コ・メディカル学院
- ⑬ 山口青果卸売市場
- ⑭ J A山口中央大歳支所
- ⑮ 旭幼稚園
- ⑯ 山口松下電器KK
- ⑰ 愛児園湯田保育所
- ⑱ 山口・小郡地域広域水道企業団